

瓦版

かなべ未来会議

みんなで、神辺エリアの未来について考えるワークショップを開催しました。神辺駅のまわりを、もっと住みやすい場所にするためのアイデアを話し合ったり、楽しく暮らせる未来について話し合っています。

第三回
WS開催日
2024.12.15
(sun)
@ 神辺交流館

【ワークショップ】かなべ未来会議・第三回レポート アイデアを言葉にし、ビジョンイラストを具体的に。

12月15日(日)に神辺の未来を考えるワークショップ「かなべ未来会議」の第三回を開催しました。

ワークショップラストとなる今回は、ビジョンイラストの磨きあげとキャッチコピー決めです。

事前に作成したビジョンイラストのラフ画と、参加者それぞれの頭の中にあるイメージとのすり合わせをしていきます。

足りないものを補ったり、余計なものを削ぎ落としたり。重要なのは、この過程で参加者同士の共通の価値観が言語化されることです。

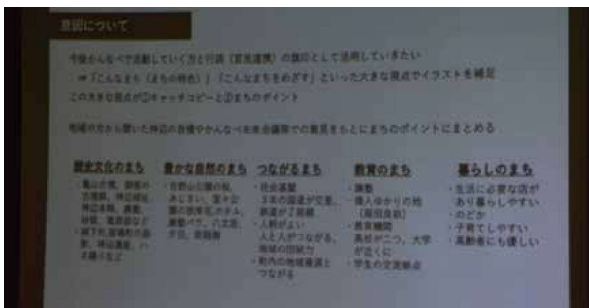
「これからの神辺に関わる方々にも共感してもらえらるビジョンにしたい」との想いから、これまでのワークショップでのアイデアと行政が地域のイベント等で聴き取った声などをまとめた、神辺の「まちのポイント」も改めて共有されました。

それらを頭に入れたつ、まずはイラストを見た率直な感想を一人ずつ発表してもらいました。ラフ画の印象としては「銀杏並木などの自然が描かれている点が良い」という一方で、「世代間や活動団体間のつながりが感じられるような表現が欲しい」という声がありました。また、神辺駅の役割や、子どもや高齢者、学生、経済的・社会的弱者と言われる方々の居場所の必要性などの新たな視点も加わりました。

自分のアイデアを言葉にし、他人のアイデアを聞き、それが反映されたイラストをみることで、さらにビジョンイメージが具体的に近づきました。



△ビジョンイラストのラフ画



△共有された神辺の「まちのポイント」

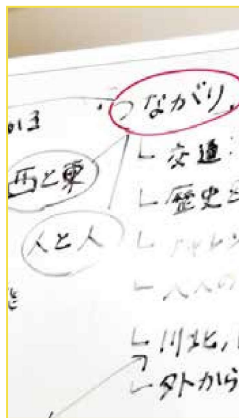


△ワークショップで意見を出し合う様子



△第三回ワークショップの集合写真

ここまでで出た意見の中で、着目したのが「つながり」という言葉。学生や企業、個人など多様な主体が横のつながりを持ちながら協力している神辺らしい言葉です。



△キーワードを整理している様子

それでは、ほかの地域にない「神辺らしいつながり」とは何か。議論を進める中で、神辺の歴史的な背景がヒントになり、できたキャッチコピーが

「むずびの驛（えき）かなべ」

むずびの中には次の3つの意味が込められています。

・歴史的背景や地理的な立地からくる「結び」

神辺は城下町、西国街道の宿場町としてヒト・モノ・コトの往来で栄えた歴史や先人達の歴史文化を受け継ぎ、現在までつないできた背景を表現しており、3本の国道が交差し、神辺駅に2路線が乗り入れる現在の井原や府中方面との結節機能も表しています。

・神辺町全体、周辺部を「結ぶ」

神辺駅を挟んで特色の異なるエリアが繋がったり、神辺町全域や周辺部とつながったり、にぎわいが広がったりすることも表しています。

・新しい場所や活動を「産（む）す」という意識
ヒト・モノ・コトが繋がりがむずびばれることで新しい活動や空間が産まれるという意志を込めています。

また、旧字体「驛」には、まち全体を駅に見立て訪れる人や暮らす人をつなぎこどもから高齢者まで「幸せ」を感じられるまちをめざす意味が込められています。

出だしは議論が難航しましたが、とても神辺らしいキャッチコピーに着地しました。最後に参加者の方から感想をいただきました。

「話し合いの場があることが素晴らしい」

「自社の利益を追求するのではなく、まちのために事業を考えていきたい」

ワークショップはこれにて幕を閉じるのですが、「次はどう動けばいい？」という新たな問いも。その取っ掛かりを見つけるために、まちづくりを学ぶ視察ツアーを組むことにしました。さて、どんな出会いと学びが待っているのか。続報をお待ちください。

そして、すでにスタートしたプロジェクトも。未来会議の参加者等による「神辺の観光マップ作りプロジェクト」、未来会議に参加されていた福山大学の先生が地域との交流施設として進める「古民家利活用プロジェクト」。神辺を「いいな」と思っ